

気になる指標

# 「鋳工業指数」その2

## 在庫循環の4つの局面

前回に引き続き経済産業省が毎月作成・公表している「鋳工業指数」について解説する。鋳工業指数には生産、出荷、在庫などの指数があることを前回紹介したが、今回は出荷と在庫の2つの指数を用いて景気変動を分析する「在庫循環図」について見てみたい。

一般的に企業は、将来の需要予測に基づき生産量を決定し、在庫を増やしたり、減らしたりする。別の見方をすれば、在庫は生産した分から出荷した分と自家消費した分を差し引いたものと考えることができる。

以下では在庫循環の仕組みについて説明する。図1は、出荷量と在庫残高を縦軸・横軸にとり、その関係を示したものである。それぞれ45度線を斜めに引くと、4つの局面に分けて考えることができる。

景気回復の初期段階においては、企業の抱える在庫はまだ低い水準にあることが多い。景気が回復し需要が増えると、当初は生産が追いつかないため在庫が減少する「意図せざる在庫減」が発生する（図1のa）。

景気回復がさらに進むと、企業は需要増を

見込んで在庫を増やす「在庫積み増し」の局面を迎える（同b）。

しかし景気の山を過ぎると、実際の需要が企業予測よりも下回ることになり、在庫が増えすぎてしまう「意図せざる在庫増」に陥る（同c）。

企業は積みあがった在庫を減らすため、減産するなどして「在庫調整」を行う（同d）。この調整局面では景気後退がさらに進み、やがて景気の谷を迎えることになる。そして景気が回復すると新たな在庫循環に入るのである。

## 在庫循環から見ると景気回復は継続

図2は、上記の考え方にに基づき、鋳工業指数（原指数）の出荷・在庫の前年同月比を2軸に配置して描いた「在庫循環図」である。現在までの動向を見てみると、2001年2月から景気後退が始まり、02年4月に景気の谷を過ぎ、足下では「在庫積み増し」局面にある。

在庫循環は通常約40カ月とされており、01年1月から数えるとすでに04年2月で38カ月を経過した。景気回復（在庫積み増し局面）がもうしばらく続くのかどうか注目される。

= 次号に続く

（木村 俊文）

図1 在庫循環の概念図

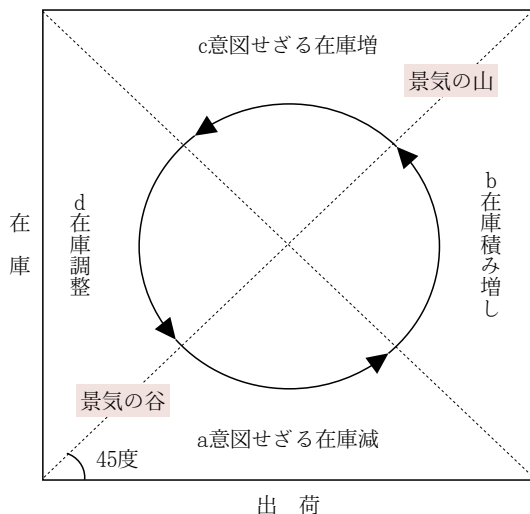
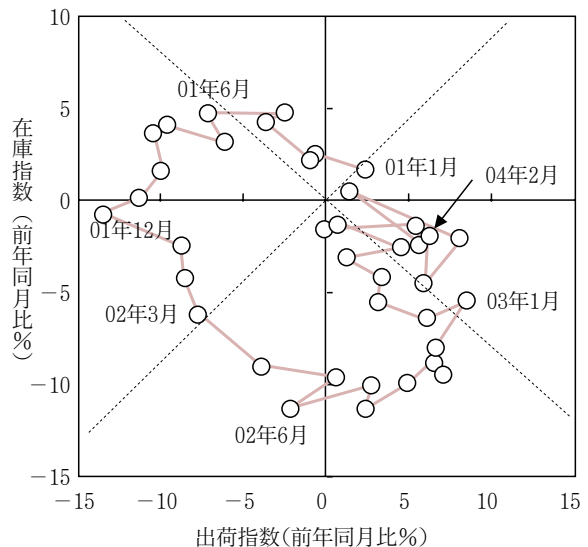


図2 鋳工業出荷と在庫の変化



経済産業省「鋳工業生産・出荷・在庫統計」より作成